

# 明政クラブ

## あぐりの丘の全天候型施設設置計画

**問** あぐりの丘の活用について、全体の運営の検討よりも、市民からの要望が多い全天候型の子ども遊戯施設の整備を優先して進めるべきと考えるが、見解を伺いたい。

**答** あぐりの丘は、これまでの農業体験型施設から子ども・子育てのための施設へと方向性を見直していく。その中で、子育て世代からの要望が多い全天候型の子ども遊戯施設の整備を最優先に取り組むべきものとして、今回、重点プロジェクトである「こども元気プロジェクト」に位置づけしており、令和3年12月の完成を目指し取り組んでいく。



完成後は、あぐりの丘全体の管理運営について、新たに指定管理者制度を導入し、指定管理者による施設整備や収益事業についても積極的に提案いただきながら、多くの人たちが楽しめる施設となるよう取り組んでいく。

## 地域医療構想への取り組み

**問** 県が策定している地域医療構想への本市の関わりと今後の取り組み方針について伺いたい。

**答** 長崎県地域医療構想は、団塊の世代が全て75歳以上となる2025年においても持続可能な社会保障体制を維持するため、平成28年（2016）11月に策定された。

本市では、医療資源が限られた地域での救急拠点病院等への補助を行うことにより、医療資源の偏在など、地域間における医療課題の解決に取り組むとともに、長崎市地域医療審議会において、県の地域医療構想調整会議と連動して協議を行っている。

今後とも各地区の課題や状況に応じた医療提供体制の構築に向け、積極的に取り組みたい。

# 公明党

## 液体ミルクの備蓄の導入

**問** 災害時に役立つ、調乳が不要の液体ミルクを備蓄する考えはないか。

**答** 液体ミルクのメリットとして、常温でそのまま与えることができるため、災害時のライフライン被害に左右されないこと、外出時や深夜の利用による育児負担の軽減も期待されることなどが挙げられ、公助や自助としての備蓄や日常使いの面からも、今後さらにニーズが高まると考えている。

一方、液体ミルクの賞味期限は缶入りで1年となっており、粉ミルクの賞味期限1年半と比較して短いため、備蓄に当たり留意する必要がある。

今後は、液体ミルクの市場流通の動向や他都市の状況、粉ミルクとの備蓄バランスなどを勘案しながら導入について検討したい。

## NPT再検討会議第1回準備委員会の長崎誘致

**問** 被爆地長崎だからこそ、2022年に行われるNPT再検討会議第1回準備委員会を誘致すべきと考えるが、見解を伺いたい。

**答** 被爆地長崎において平和の国際会議が開かれることは大変意義があるため、2021年に開業予定のMICE施設などでの開催が可能か検討するとともに、国連本部、国連事務所以外での開催の可能性について情報収集に努め、可能性のあるものについては、外務省や関係機関に働きかけを行いたい。

NPT再検討会議：核不拡散条約(NPT)の運用状況を検討するため、5年に1度ユーロ100の国連本部で開かれる。その3年前から準備委員会が開かれるが、国連本部や国連事務所のある地以外での開催実績はない。

# 令和長崎

## 県庁跡地解体後の埋蔵文化財調査

**問** 市の新たな文化施設の建設地である県庁舎跡地は、歴史的にも重要な場所であるため、徹底的な埋蔵物調査をするよう県に要請するべきではないか。

**答** 現在の解体工事においては、埋蔵文化財専門職員を常時立ち合わせ、遺構・遺物の有無の確認がなされている。建物が解体撤去された後も、専門家の意見をもとに必要な確認調査を実施し、遺構が発見された場合は、その価値を評価し、本格的な調査を検討するとされており、市としても県に対し、新たな文化施設建設の整備予定場所の地下埋蔵物の価値判断を求めている。

今後とも、確認調査等の結果を踏まえながら、新たな文化施設の整備について県と協議を行っていく。

## 長崎スタジアムシティプロジェクト

**問** ジャパネットホールディングスグループが設立した(株)リージョナルクリエーション長崎と市が立ち上げた長崎サッカースタジアム検討推進チームとの連携は図られているのか。

**答** ジャパネットホールディングスグループによるスタジアムを核としたまちづくりには、市もしっかりと連携するため、副市長を統括者とする長崎サッカースタジアム検討推進チームを設置した。これまで、プロジェクトに係るさまざまな提案事項に市全体でスピード感を持って対応していくため、推進会議において進捗状況や全体の情報について共有を図っている。

現在、プロジェクトは、計画の完成度が高められている状況にあるため、さらに連携を深め、よりよいまちづくりに努めていきたい。